

経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2398号 2018年03月05日 (月曜日)

《 Trump shock 》

先週は、マーケット的にも「トランプ政治の負の衝撃と今後への影響」を考えざるを得ない状況でした。正式発表は今週の予定ですが、トランプ大統領は鉄鋼とアルミ製品の輸入に関して各 25%と 10%の関税を課す方針を明らかにし、その理由を「国家安全保障」に置いた。しかも「例外を作っていたらきりが無い」（政権幹部）との理由で、主なターゲットにしている中国製ばかりでなく、日本など同盟国に配慮することなく「一律・例外なし」での関税引き上げ実施を主軸に検討しているとされる。

マーケットが心配したのは

1. アメリカの需要家が受ける産業基礎資材の値上がり懸念と、それが消費者段階までの「物価上昇圧力」として跳ね返る心配
2. 中国、EU、カナダなど各国がアメリカの措置に対抗してアメリカの一部輸出製品に高い関税をかけることによって引き起こされるかも知れない「貿易戦争」のリスク
3. 「票のためなら何でもする」というトランプ大統領のスタンスが改めて明らかになったことで、今後のトランプ政治・政権への懸念増大

などでしょう。アメリカの「金利上昇懸念」を受けたマーケット混乱後の上昇から 20 以下に落ちていた VIX 指数は、先週のニューヨーク市場の株価急落を受けて再び上昇。その後週末にかけては再び 20 以下に下がってきましたが、全体的にはマーケットでは先行き不透明感が強い。その不安感を背景に、同指数は 20 前後の高い水準を維持しているように見える。

為替も株価に劣らず大きく動いた。ドル・円は 105 円台に突入し、ニューヨークの週末の引けは 105 円台の後半。しかし全体的に、「トランプの天井」が今回の一連の騒動で下がった印象がする。つまり大統領の存在そのものが、ドル・円を円高方向に誘導している可能性だ。自らの票を維持するためには、貿易でも為替でも使うという姿勢は、マーケットから見ると「得体の知れない円高圧力」に見える。同盟国の地位も何も関係ない、との印象も鮮明だ。

鉄鋼やアルミ製品輸入への新たな関税賦課に関しては、正式に今週のいつ発表になるのかは公表されていない。共和党の内部、さらには政権の内部にも当然異論はあると伝えられ

る。しかし米イスラエル大使館のエレサレムへの移転表明なども、ほぼ大統領自身のツイッターの中味そのままに発表された。政権の内部で異論があっても、自分の立場を曲げることのないスタンスが鮮明だ。よって恐らく鉄鋼製品に対して 25%、アルミ製品に対して 10%の関税引き上げはそのまま発表されるだろう。可能性としては実施細則などで「同盟国への配慮」がなされるかもしれないが、あまり期待しない方が良い。

《 Easy to win ? 》

トランプ大統領が「マーケットが恐れを抱くに相当する戦闘性」を持っている事は、EUの報復方針（ハーレーやバーボンへの報復関税を示唆）に対して、「それだったら欧州からアメリカに輸出される自動車に関税をかける」と言い出したことに示される。普通なら「それは貿易戦争を引き起こす」と懸念するが、この大統領は「(貿易戦争が起きることは) 良いことだ。アメリカは簡単に勝てる」と言っている。歴史や過去の教訓をほとんど意に介することのない大統領であることが改めて明確になったと言える。

そこにあるのは「常識破壊的行動」「予測不可能性」であって、それはマーケット全般が嫌がるものだし、近くで働いている人にも無力感をもたらすのだろう。最近またトランプ政権を去る人の話が多くなってきた。これまでマーケットは「pro-business」であること、減税実施やインフラ投資という政権の大きな方針を歓迎してきた。その要素は依然として残るが、「経済的論理を無視しての政治・選挙行動」を嫌気する場面も今後は出てくると予想される。

ドイツでは昨夜になってドイツ第二党のドイツ社会民主党（SPD）が、メルケル首相率いるキリスト教民主・社会同盟（CDU・CSU）との連立合意を党員投票で了承したと発表。この結果、3月半ばにも第4次メルケル政権が発足する見通しになった。5カ月以上続いたドイツの政治空白はようやく収束する。メルケル氏は「この国のために（SPDと）引き続き協力できることを楽しみにしている」という声明を発表した。

SPD党内投票の結果は、賛成が66.02%、反対は33.98%だったという。党内にはメルケル首相が主導する連立政権に入れば、前回がそうであったように「党の存在感が失われる」との反対論も強くあった。しかし政権入りを拒めば欧州の枢要国であるドイツでの安定政権樹立の道が閉ざされ、政治空白の長期化は避けられない。これに対して国民の批判が広がりかねない。最後は、戦後のドイツ政治を支えた二大政党の一つとして責任を投げ出すべきではないとの声広がったと見られる。

ただし「大連立」ができたからといって、メルケル首相が従来のような縦横無尽な内政・外交が出来るかと言えば難しい。何よりも難民問題で首相のこれまでの措置を批判する国内世論は強いし、反移民の「ドイツの為の選択肢」が非常に大きな力を議会で持った。「メルケル政治の有効性」が低下した形で大連立が成立すると考えるのが自然だ。フランスではマクロン大統領の支持率が上がってきて安定感を増しているが、イタリアの議会選挙の

結果が出るのかこれからだし、欧州の政治は常にそうだが不安定要素を抱えたままだ。

いずれにせよ、メルケル氏は3月半ばにも4度目の首相指名を受ける見通しだ。閣僚人事に関しては、既にCDUがアルトマイヤー官房長官を経済相に、シュパーン財務次官を保健相に起用する人事案を公表している。内相ポストを握るCSUは週明けに、財務相や外相のポストを得たSPDも近く入閣者リストを明らかにする。

マーケットにとっては財務相の人事は重要だ。ドイツの政界では「メルケル氏が首相を務めるのは今回が最後」とされる。ということは、時間の経過の中でメルケル首相の求心力は徐々に低下してくるということだ。次の選挙がある4年後まで首相を勤められるかも不明だ。

今週の主な予定は以下の通り。

- | | |
|-------------|---|
| 03月05日(月曜日) | 米2月ISM非製造業景況指数
中国全国人民代表大会が開幕 |
| 03月06日(火曜日) | 米1月製造業受注
豪州準備銀行理事会 |
| 03月07日(水曜日) | 豪10~12月GDP
1月景気動向指数
米2月ADP雇用統計
米1月貿易収支
ベージュブック
トルコ中銀金融政策決定会合 |
| 03月08日(木曜日) | 米1月消費者信用残高
10~12月GDP改定値
1月国際収支
中国2月貿易収支
2月都心オフィス空室率
2月景気ウォッチャー調査
新協定TPP11署名式(チリ)
ECB定例理事会(ドラギ総裁会見)
日銀金融政策決定会合(~9)
休場=ロシア |
| 03月09日(金曜日) | 1月家計調査
2月マネーストック
米2月雇用統計
ブラジル2月消費者物価
メジャーSQ算出日 |

黒田日銀総裁会見

《 have a nice week 》

かなり暖かくなった週末でしたが、皆様いかがお過ごしでしたか。土日とも、都内の公園などには大勢の方々が繰り出し、シートを広げたり、またはのんびりと散歩を楽しんでいました。やはり冬は人間にとって心理的にも、行動面でもなにかしらの重しになっていたのだな、と思える週末でした。それが開放されて、足が外に向き、そして外で過ごす時間が楽しくなった印象がした。土曜日だったかな。タクシーに乗ったら「冷房」をかけていました。そんな季節ですが、まだまだ揺り戻しはあると思いますし、私もそうですが花粉症の人間にとってはややきつい期間でもあります。

オリンピックは華々しかったのですが、今朝のニュースで「おや」と思ったのは巨人を自由契約となった村田修一内野手（37才）のBCリーグの栃木への入団。昨日の夜の段階でいくつかのマスコミが報道。5日にも正式発表されるという。横浜や巨人で活躍した大砲。まだやれるのではと思っていたが、日本野球機構（NPB）の球団からのオファーは結局なかったようです。

「続けるなら独立リーグで選択できれば」と模索していたようですが、報道によれば「メジャーの春季キャンプの招待選手としての打診や複数の独立リーグ球団からのオファー」があって、その中から新天地を決断したそう。7月末までのNPB復帰を目指してプレーする、と。スポーツは華々しい一方で、ちょっと寂しいニュースも一杯。活躍を見ているだけに、「今後も頑張っって欲しい」と思うし、村田選手の今後の人生にとっても、BCリーグでの活動・経験はそれなりに生きてくると思う。

それでは皆さんには良い一週間をお過ごし下さい。

《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》